

## 令和5年度決算の概要

令和5年度の新潟市病院事業（税抜）は、事業収益279億5,787万円に対し、事業費用286億6,287万円となり、差引 7億500万円の純損失（赤字決算）となりました。期末時点における累積欠損金は62億8,685万円となっています。

本業の決算である医業収支について、医業収益は232億6,787万円となり、令和4年度決算に比べて14億2,640万円の増となりました。

そのうち入院収益は、1日あたり患者数が12人増、単価は2,995円増となり、9億7,421万円の増でした。また、外来収益は、1日あたり患者数が6人減となりましたが、単価は2,074円増となり、4億5,979万円の増となりました。

医業費用は269億5,186万円となり、令和4年度決算に比べて10億124万円の増となりました。主な要因は給与費が2億4,700万円、材料費が6億2,490万円の増となったことです。

その結果、医業収支は36億8,398万円の赤字となりましたが、前年度に比べ4億2,516万円良化しています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、患者は徐々にもどりつつあるものの、全病床利用率は80.7%と前年度比1.7ptの増加に留まり、コロナ前の水準には程遠い状況です。

令和6年度からは医師の働き方改革も始まり、より厳しい経営環境が続きますが、平均在院日数を短縮するとともに新規入院患者を増やすことで、負担を増大させることなく、当院の役割である重症・専門・救急を中心とした医療の提供を続け、経営改善に努めていきます。

